

ふしのがわひがた 榎野川干潟



DATA

エリア：自然公園区域外
所在地：山口県山口市
着手：H14

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

概要：榎野川河口域・干潟等の自然環境の再生・維持を検討。

設立日：H16.8.1

構成員数：57

全体構想作成日：H17.3.31

実施計画作成日：未作成
(H19.3 現在)



カブトガニ



榎野川下流域の干潟は、渡り鳥のクロスロードとなっており、日本の重要湿地 500 にも選ばれています。さらに、絶滅危惧種であるカブトガニの生息地であり、全国的にも重要な地域となっています。

しかし、浮泥の流入、富栄養化等によるカキの異常発生、採貝耕耘機会減少による干潟の硬質化、アマモ場の激減など、干潟生態系の変容・改質が生じています。このため、榎野川河口域・干潟の自然環境を再生し維持していくための取組みを進めています。



ゾーニングのイメージ案（具体的な検討はそれぞれの事業主体において行われる）

自然再生の手法

- ▶ カキ殻の粉碎、土砂の交換などによる底質環境の改善→①
- ▶ 干潟に対する働きかけが持続される体制づくり→②

平成 15 年度に干潟の詳細現況調査に着手。平成 16 年度にはカキ殻が分布している中潟で小規模な置換実証試験を実施し、平成 17 年度には耕耘混合砂工法とカキ殻粉碎耕耘工法の 2 工法により拡大実証試験を行いました。また、砂干潟の南潟では、平成 17 年度より耕耘実証試験等を行い、合わせてモニタリングを実施しています。

① カキ殻高密度分布域でのカキ殻粉碎と耕耘（中潟）

耕耘混合砂工法

干潟（カキ殻を含む）を耕耘、攪拌しながら、上層と下層の土砂を混合。また、施工域の一部では、砂や碎石を 20% の混合比で混入します。これにより、底質改善を行い、生物多様性の向上を図ります。



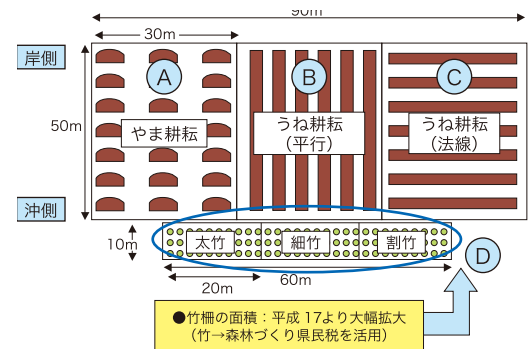
カキ殻粉碎耕耘工法

上層（20～60cm 厚）にあるカキ殻を粉碎しながら、上層と下層の土砂を置き換えます。また、施工域の一部に砂や碎石を覆砂します。これによりカキ殻分布による水域利用障害の改善および砂浜生物などの多様性の向上を図ります。



② 砂干潟区域での耕耘（南潟）

豊かな砂干潟の再生をめざして、平成 17 年度より人力や漁船による干潟耕耘や竹柵の設置などを行い、二枚貝などに代表される干潟生物の生息環境改善に取り組んでいます。



B うね耕耘（平行）作業



D 竹柵区（丸竹設置）

耕耘作業の効果：干潟地盤がやわらかくなる・下層にある栄養分を引き出せる・還元層を好酸化できる・適度な水の流れができる・泥温上昇を抑えることができるなど